

鶴見区将来ビジョン（2023～2027）

「めざすべき将来像」の実現に向けて

【改訂版】

（令和8年4月改訂）
令和5年4月
大阪市鶴見区役所

はじめに

- これまでの5年間（2018～2022）では、めざすべき将来像としての「つながり、ふれあい、みまもり、支え合う、だれもが安心して暮らせるまち」の実現に向け、4つの柱を軸に取組みを進めてまいりました。
- 各種施策・取組みについては、概ね想定どおりに進捗していたものの、新型コロナウイルス感染症拡大のため、多くの取組みが中止や変更を余儀なくされました。
- そのため、今後は新型コロナウイルス感染症に係る感染状況を含め、外部環境の変化に柔軟に対応していく必要があります。
- これからの5年間（2023～2027）では、これまでのめざすべき将来像に SDGsの理念である「誰一人取り残さない」というキーワードを新たに付け加えたうえで、その実現に向けた持続的かつ安定的な施策を推し進めます。

改訂にあたって

- 令和7年2月に本市の方針として「令和8年度以降の運営方針の成果指標には区民アンケート結果を用いない」とする旨の通知が市政改革室より発出されたことを踏まえ、従来より区民アンケートを鶴見区運営方針の成果指標としていたものについて見直しが行われています。当該成果指標と同一である将来ビジョンの成果指標についても見直しが行われています。
- 鶴見区に関する統計データのうち本ビジョン制定後に更新されたものを反映します。

鶴見区将来ビジョン (2023～2027)

【改訂版】

I

区将来ビジョン策定にあたって

- | | | |
|---|------------------------------|--------|
| 1 | 区将来ビジョンの位置づけ | P 4 |
| 2 | 区将来ビジョンの変遷 | P 5 |
| 3 | この5年間（2018～2022）の振り返り | P 6～10 |
| 4 | 今後5年間（2023～2027）に向けての基本的な考え方 | P11 |

II

鶴見区の概要（統計データ）

P12～17

III

鶴見区将来ビジョン（2023～2027）

- | | | |
|---|-------------|--------|
| 1 | 全体像 | P18 |
| 2 | 施策展開の方向性・施策 | P19～22 |
| 3 | 施策毎の主な取組み | P23～29 |

1 区将来ビジョンの位置づけ

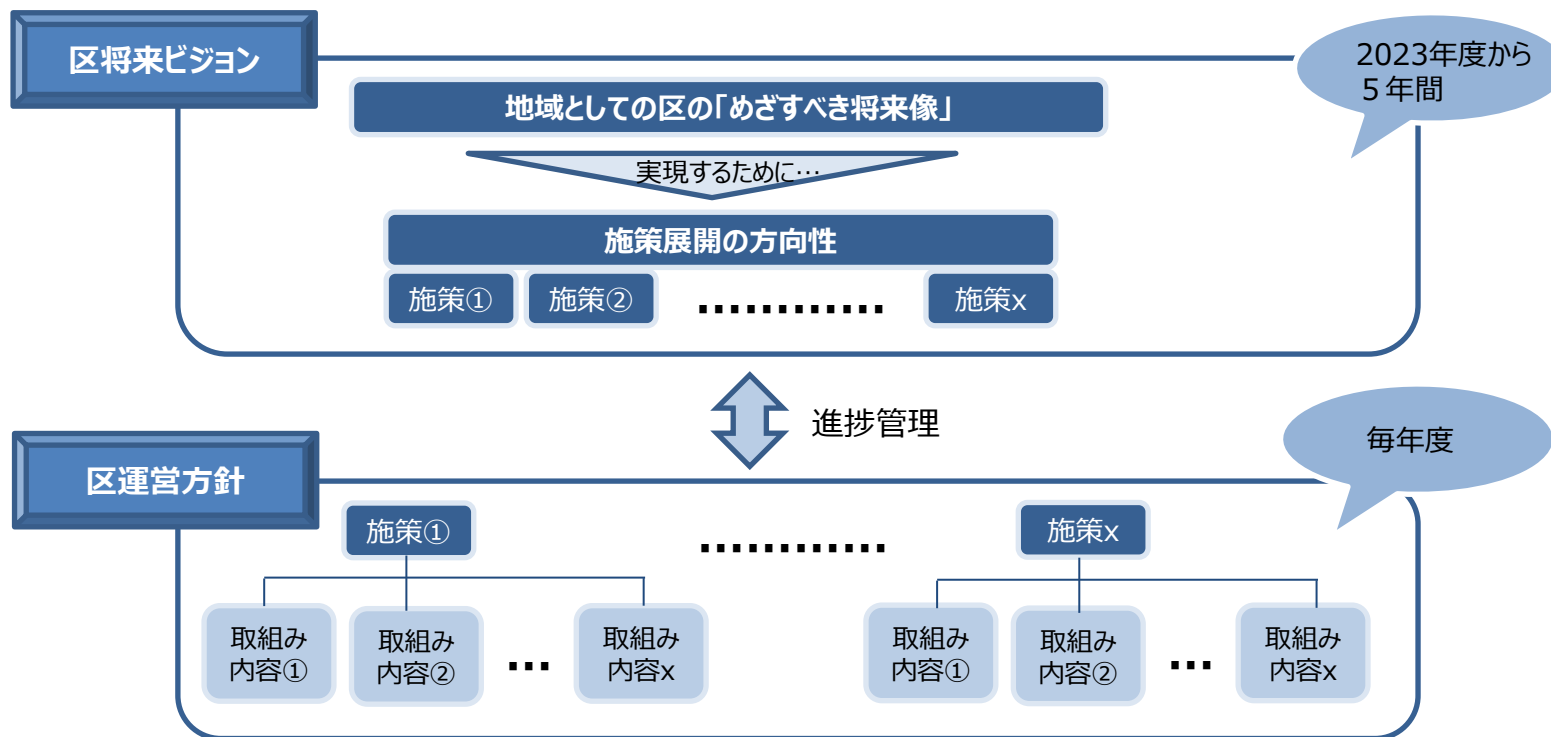
「区将来ビジョン」の策定趣旨

区長が区シティ・マネージャー及び教育委員会事務局区担当教育次長（以下「区長」という。）として所管する事務も含め、区内の基礎自治体行政を総合的に推進していく上で、**地域としての区のめざすべき将来像**、将来像の実現に向けた**施策展開の方向性**等を取りまとめ、区民の方々に明らかにします。

区運営方針

「区運営方針」は、「区将来ビジョン」で示された施策展開の方向性に沿って年度ごとの施策・事業の取組みを明らかにする単年度ごとのアクションプランです。

区長は毎年度の「区運営方針」に係るPDCAサイクルを通じて、「区将来ビジョン」を適切な方法で進捗管理します。



2 区将来ビジョンの変遷

2013～2017年度
(H25～H29年度)

めざすべき将来像

だれもが「住んでよかった」と笑顔で言えるまち

施策展開の方向性

- 1 集客・にぎわいの創出
(区の魅力創造)
- 2 地域コミュニティの活性化
(地域社会全体で支えあうコミュニティづくり)
- 3 青少年健全育成・子育て支援
(次世代育成に向けたまちづくりの推進)
- 4 安全・安心な暮らし
(誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進)
- 5 区役所力の強化
(区役所力の強化)

2018～2022年度
(H30～R4年度)

めざすべき将来像

つながり、ふれあい、みまもり、支えあう、だれもが安心して暮らせるまち

施策展開の方向性

- 1 つながる・支えあう
(住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり)
- 2 備える
(安全なまちづくり)
- 3 育てる・まなぶ
(子育てとまなびを応援するまちづくり)
- 4 聞く・伝える
(区民への必要な情報の発信)

3 この5年間（2018～2022）の振り返り

鶴見区将来ヴィジョン（2018～2022）を構成する「4つの柱」並びに「施策展開の方向性」、「施策」について

1 つながる・支えあう（住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり）

■住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり

地域に関わるすべての人が力をあわせ、共に生き共に支え合い、みんなが生活を共に楽しむ地域をつくり上げるため、「鶴見区地域保健福祉ヴィジョン」の5つの基本目標に沿って取組みを推進します。

2 備える（安全なまちづくり）

■災害に強いまちづくり

今後想定される大規模な自然災害に対する備えとして、区民の防災意識の向上と、地域防災力の強化に向けた支援、区災害対策本部の機能強化に努めます。

■街頭犯罪・交通事故の少ないまちづくり

鶴見区を安全なまちにするため、地域、関係機関、事業所等と連携し街頭犯罪の抑止に取り組みます。また、交通事故の減少や自転車マナーの向上をめざし、啓発活動に取り組みます。

3 育てる・まなぶ（子育てとまなびを応援するまちづくり）

■安心して子育てできるまちづくり

地域の関係機関や関係団体と連携し、子育てに必要な情報を的確に発信するとともに、親子が気軽に立ち寄り、親子で一緒に交流したり、子育ての相談ができる機会・場所の提供など、安心して子育てできる環境づくりを進めます。

■まなびを通じたつながりづくり

幅広い層に「まなびの場」を知ってもらうとともに、「まなび」を通じたつながりづくりを進めます

■学校教育支援の取組み

区役所が学校や地域、保護者のニーズや意向を把握し、効果的な学校支援を進めます。

4 聞く・伝える（区民への必要な情報の発信）

■情報・魅力発信・総合窓口の充実

区民に身近な総合行政窓口としての機能を充実させるとともに、あらゆる年代に応じたきめ細かな区政情報や、区への愛着を醸成する魅力の発信に取り組みます。

3 この5年間（2018～2022）の振り返り

（参考）成果指標

1 つながる・支えあう（住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり）

運営方針 アウトカム指標	H30年度	R03年度
困った時（いざという時）に助けてくれる人がいると感じている区民の割合（※）	89%	—
日常生活の中で「お元気ですか？」や「何かお困りですか？」、「留守の間の植木の水やりお願い」など、住民同士の「声かけ」「見守り」「支え合い」が行われていると感じる区民の割合（※）	37.9%	—
日常生活の中で「お元気ですか？」や「何かお困りですか？」など住民同士の「声かけ」「見守り」「支えあい」が行われていると感じる区民の割合（※）	—	26.4%
肥満者やメタボ予備軍の該当者の割合	肥満者 25.5% メタボ予備軍 18.4%	—
運動や食生活など、健康に関する取組みを行っている区民の割合（※）	—	87.1%

2 備える（安全なまちづくり）

運営方針 アウトカム指標	H30年度	R03年度
災害時の避難場所について確認し、いざという時に備えている区民の割合（※）	85.7%	79.4%
安全で住みやすいまちと感じている区民の割合（※）	86.6%	91.5%

※区民アンケートにて肯定的な回答をした区民の割合

※目標値を下回った箇所は「色付け」

（参考）成果指標

3 育てる・まなぶ（子育てとまなびを応援するまちづくり）

運営方針 アウトカム指標	H30年度	R03年度
鶴見区は子育てしやすいまちだと感じている区民の割合（※）	78%	83.7%
鶴見区は子育てしやすいまちだと感じている子育て世帯の区民の割合（※）	90%	92%
生涯学習の取組みに参加することにより、「まなびを通じたつながりを感じる」と答える区民の割合	71%	—
「まなびを通してつながりを感じている」と回答した区民の割合（※）	—	66.1%
「人権尊重のまちづくりが進んでいる」と回答した区民の割合（※）	—	39%
学校や保護者のニーズ、意向を教育行政に反映していると思う校長・教頭の割合	94.1%	97%

4 聞く・伝える（区民への必要な情報の発信）

運営方針 アウトカム指標	H30年度	R03年度
区の様々な取組（施策・事業・イベントなど）について、区の広報紙、ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどにより、区役所から必要な時に必要な情報が届いていると思う区民の割合	53.4%	—
鶴見区が実施している広報（区広報紙「広報つるみ」、区ホームページ、区広報板など）で、必要とする区政情報が必要なときに入手できていると思う区民の割合（※）	—	67.6%

※区民アンケートにて肯定的な回答をした区民の割合

※目標値を下回った箇所は「色付け」

3 この5年間（2018～2022）の振り返り

（参考）成果指標

1 つながる・支えあう（住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり）

運営方針	アウトカム指標 目標達成・未達成別	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度
経営課題 1	目標値を上回った戦略（施策）	2	1	2	2
経営課題 5	目標値を下回った戦略（施策）	0	1	1	1

2 備える（安全なまちづくり）

運営方針	アウトカム指標 目標達成・未達成別	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度
経営課題 4	目標値を上回った戦略（施策）	2	2	2	1
	目標値を下回った戦略（施策）	0	0	0	1

3 育てる・まなぶ（子育てとまなびを応援するまちづくり）

運営方針	アウトカム指標 目標達成・未達成別	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度
経営課題 2	目標値を上回った戦略（施策）	3	3	3	3
経営課題 3	目標値を下回った戦略（施策）	0	0	0	0

4 聞く・伝える（区民への必要な情報の発信）

運営方針	アウトカム指標 目標達成・未達成別	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度
経営課題 5	目標値を上回った戦略（施策）	1	1	－	－
（R01まで）	目標値を下回った戦略（施策）	0	0	－	－

3 この5年間（2018～2022）の振り返り

まとめ

- この5年間（2018～2022）にわたり、当該期間のめざすべき将来像である「つながり、ふれあい、みまもり、支えあう、だれもが安心して暮らせるまち」の実現に向けて、各種施策を推進し、その実現を目指した取組みを進めてきました。
- 各種施策・取組みについては、概ね想定どおり進捗していたものの、新型コロナウイルス感染症拡大のため、多くの取組みが中止や変更を余儀なくされ、一部の計画・目標には未達となったものもあります。
- 達成したものについては、引き続き課題解決に向けた施策を展開することとし、また未達成のものについては、原因を探求したうえで課題を設定し、改善策を検討していくといったPDCAサイクルの徹底を図っていく必要があります。
- とりわけ、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が大きかったものについては、従来の取組みに拘ることなく、ウィズコロナにおいても実施できる具体的な取組みを模索・実践していく必要があります。
- また、これからの5年間（2023～2027）の区将来ビジョンの策定にあたっては、新型コロナウイルス感染症に係る感染状況も含めた環境変化への対応を整理する必要があります。

4 今後5年間（2023～2027）に向けての基本的な考え方

- この5年間の振り返りを通して、これまでの「施策展開の方向性」の4つの柱については、引き続き、課題解決に向けた施策を展開するとともに、PDCAサイクルの徹底を図るものであることから、今後5年間（2023～2027）に向けても継続していくことを基本として必要な修正・更新を行っていくものとします。

【再掲】

これまでの
「施策展開の方向性」

1. つながる・支えあう（住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり）
2. 備える（安全なまちづくり）
3. 育てる・まなぶ（子育てとまなびを応援するまちづくり）
4. 聞く・伝える（区民への必要な情報の発信）

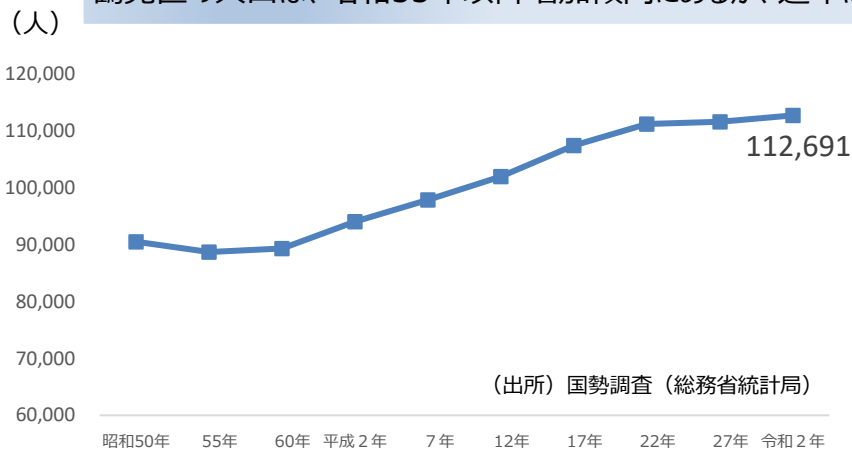
- とりわけ、ウイズコロナにおいても実施できる具体的な取組みに係る模索・実践については、各種事業の特性等をはじめ、取り巻く環境や実情を踏まえたうえで、効果的な方策を検討し、実施していきます。

- また、区政運営を図っていくうえで、H30年度以降の社会や環境変化を踏まえたものとします。

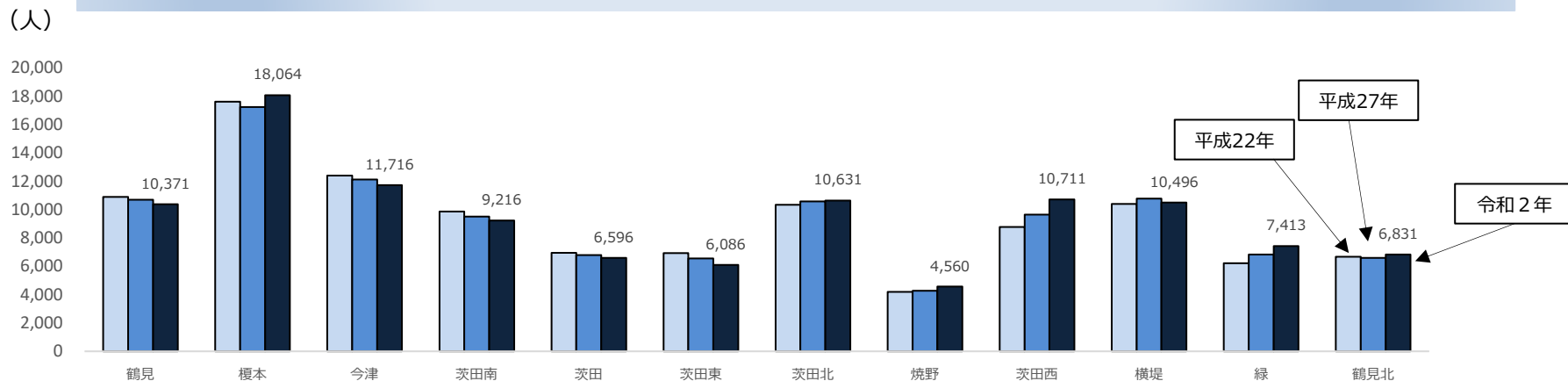
【例】 ✓ コロナ禍を契機とした社会変化（コミュニケーション手法の多様化、安全志向や衛生意識の高まりなど）
✓ 持続可能な開発目標（SDGs）への意識の高まり など

- なかでも、2030年までを目途とする持続可能な開発目標（SDGs）は、行政が進めているさまざまな取組みとも密接な関わりがあるため、本市においても、SDGsの達成に向けた取組みの推進、SDGsの理念の普及や理解の促進に努めています。鶴見区としても従来の4つの柱とは別に、SDGsの理念を念頭に柱を新たに掲げ、積極的に取り組んでいきます。

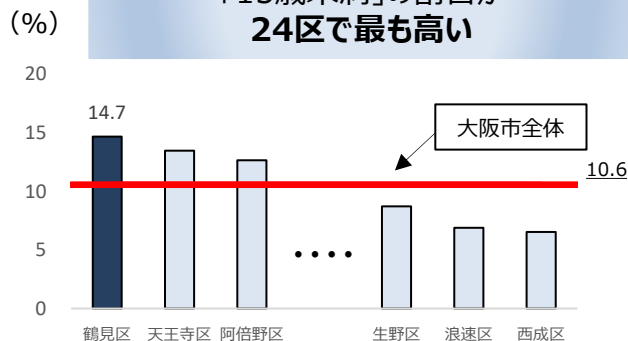
鶴見区の人口は、昭和55年以降増加傾向にあるが、近年はゆるやかなものとなっている



地域別（12地域）の直近10年間の人口（H22→R02）では、全体的に微増・微減の傾向にある地域によっては顕著な増加（茨田西（22%増）、緑（19%増））・減少（茨田東（12%減））が認められる



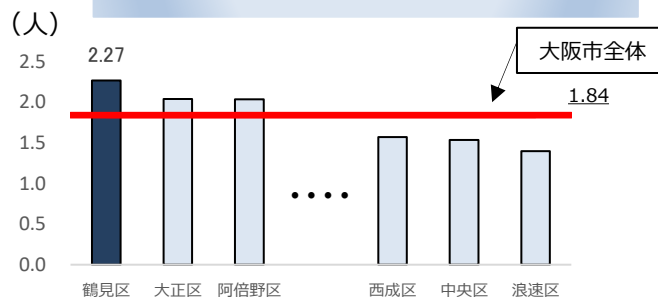
年齢別人口構成比のうち、「15歳未満」の割合が24区で最も高い



【年齢3区分別構成比】（出所）令和2年国勢調査（総務省統計局）

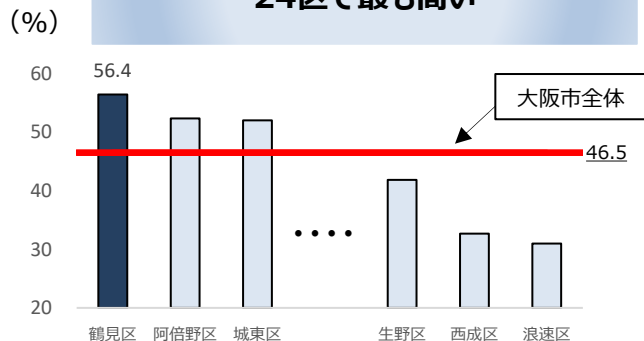
注) 不詳補完値による。

1世帯当たり人員が24区で最も多い



【一般世帯の1世帯当たり人員】（出所）令和2年国勢調査（総務省統計局）

配偶者がいる割合が24区で最も高い

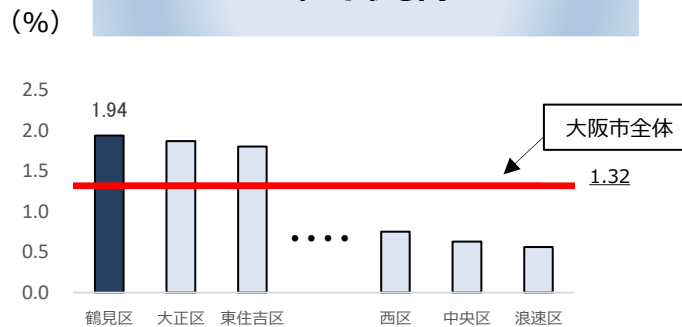


【配偶関係別人口】（出所）令和2年国勢調査（総務省統計局）

(※「配偶者別」は未婚、有配偶、死別、離別に区分)

注) 不詳補完値による。

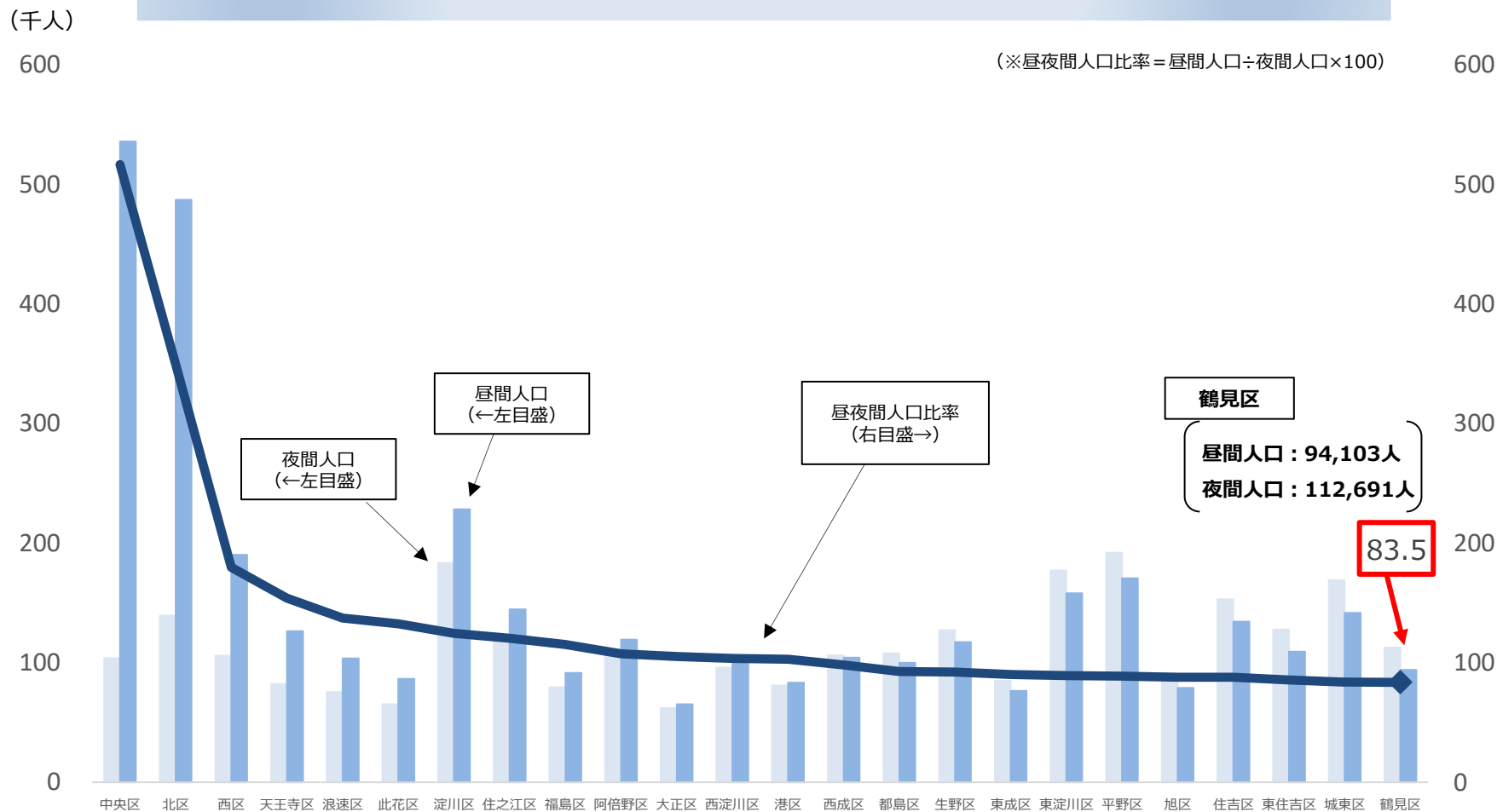
3世代での世帯数の割合が24区で最も高い



【世帯員の年齢による世帯の種類別一般世帯数及び3世代世帯数】（出所）令和2年国勢調査（総務省統計局）

昼夜間人口比率※が83.5であり、24区で最も低い

➔ 大阪市内でも、区内で暮らし、区外へ通勤・通学される方が比較的多い傾向



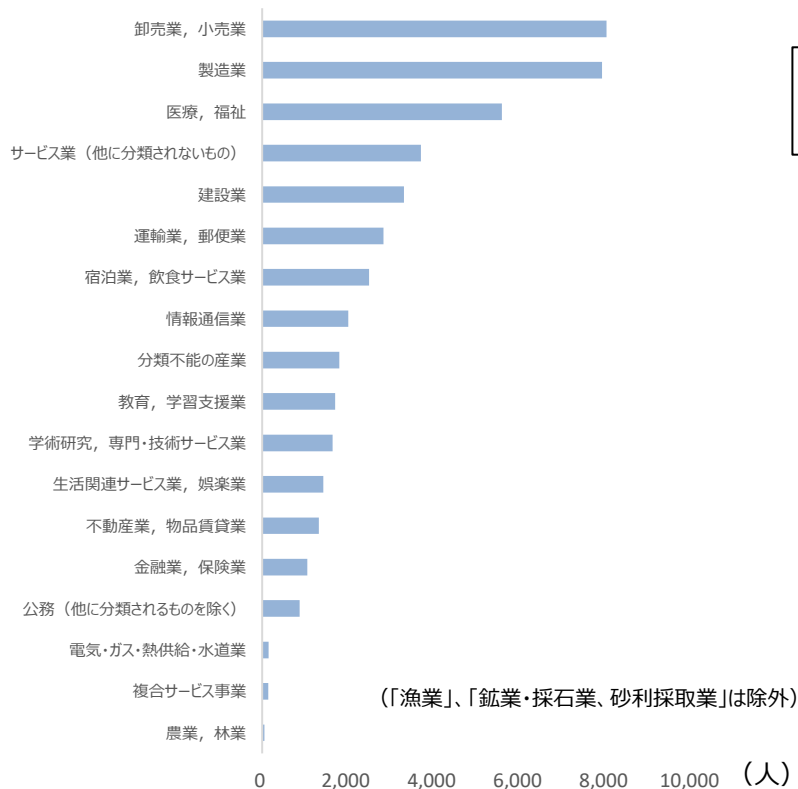
【常住地又は従業地・通学地別人口及び昼夜間人口比率】（出所）令和2年国勢調査（総務省統計局）

注）不詳補完値による。

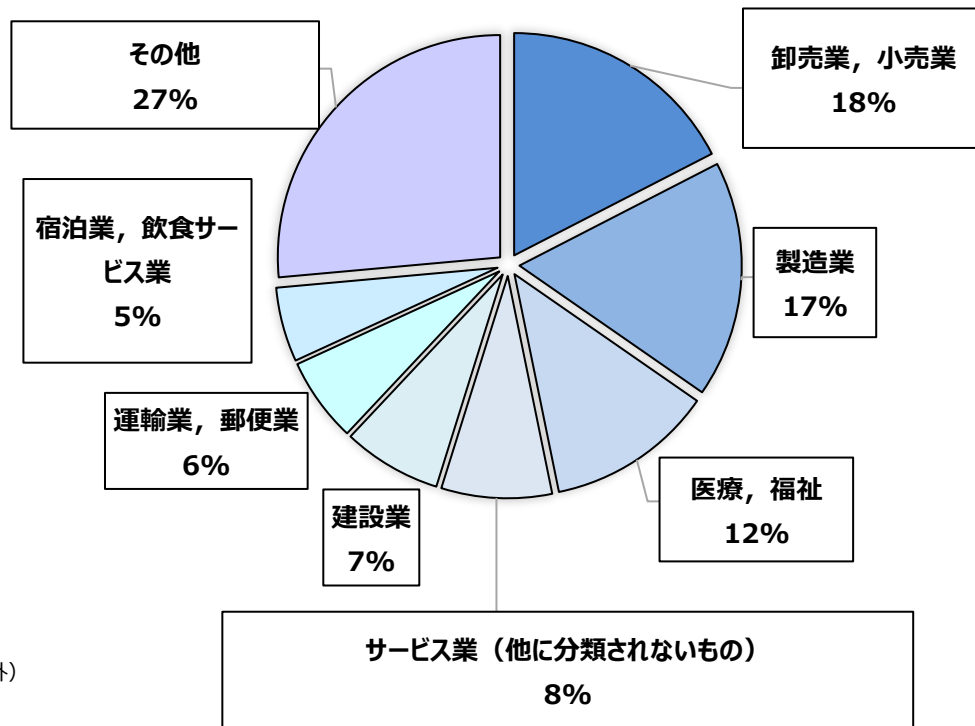
鶴見区の就業者が従事する産業について、「卸売業、小売業」に従事する区民が最も多い

産業（大分類）※ 別人口〔産業別〕（15歳以上就業者）（※「産業」とは、就業者について、その人が実際に仕事をしていた事業所の主な事業の種類によって分類したものをいう）

【就業者数】

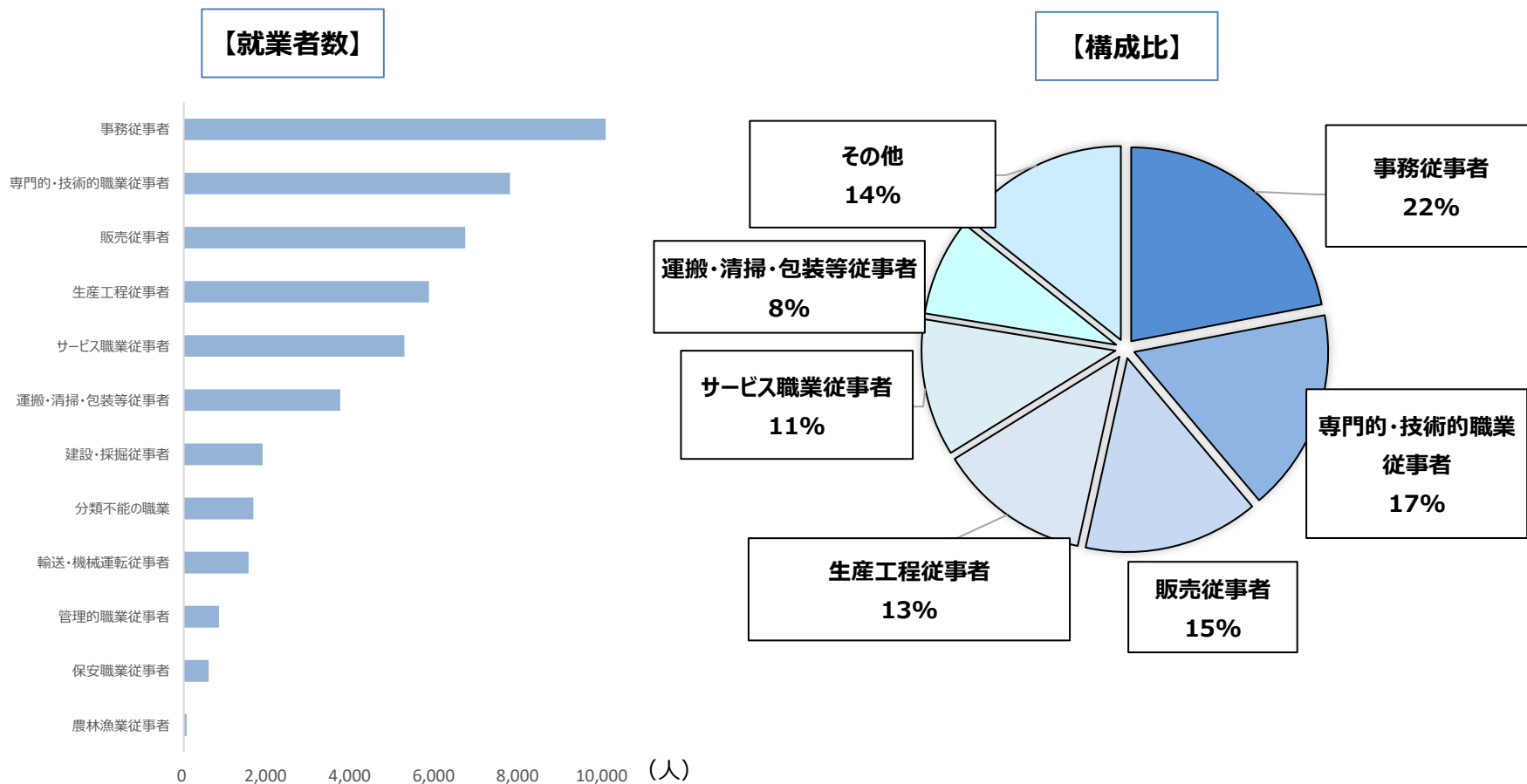


【構成比】



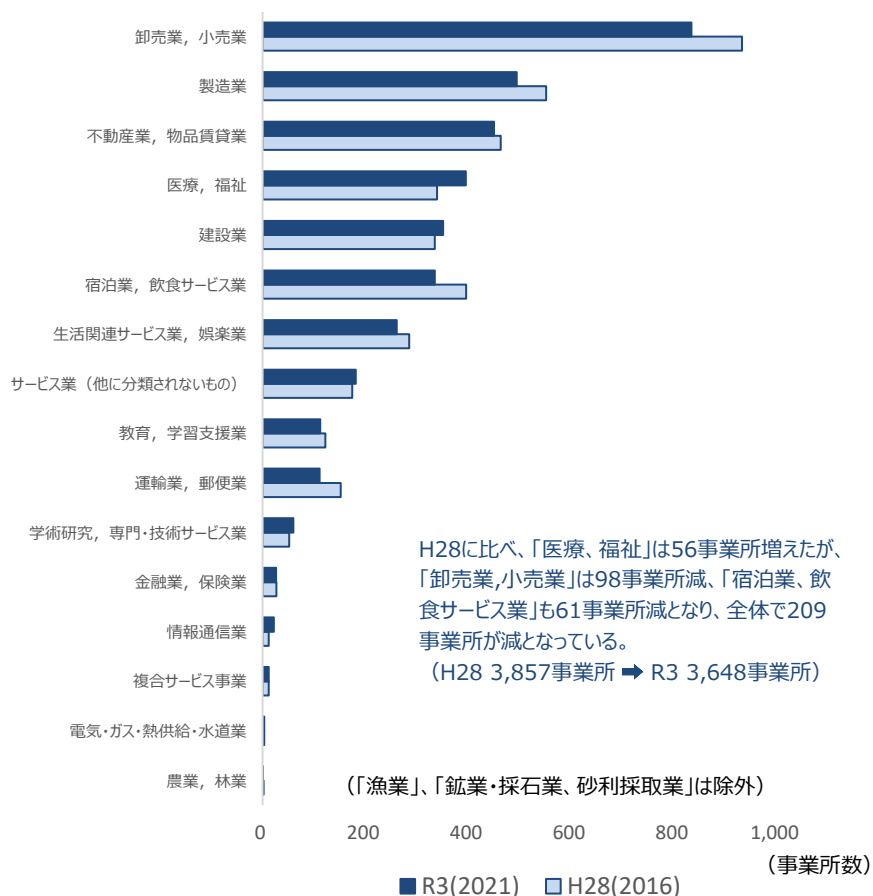
鶴見区の就業者の職業について、「事務従事者」が最も多い

職業（大分類）[※] 別人口〔職業別〕（15歳以上就業者）（※「職業」とは、就業者について、その人が実際に従事していた仕事の種類によって分類したものをいう）

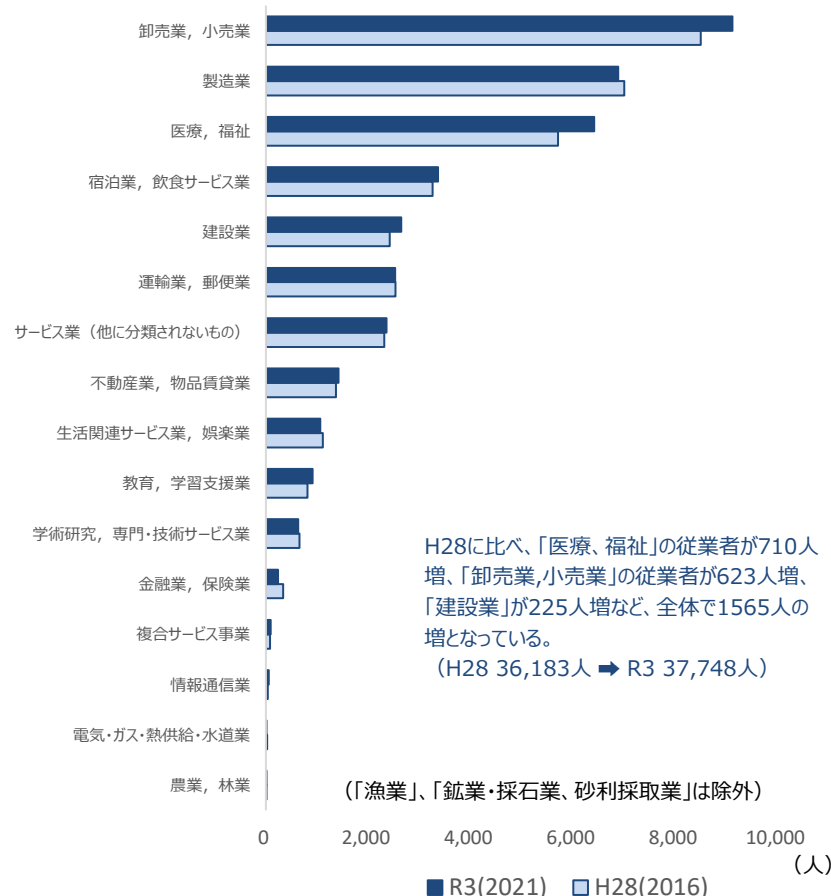


鶴見区の民間事業所を産業大分類別にみると、事業所数では「卸売業、小売業」が最も多く、従業者数でも「卸売業、小売業」が最も多い

【事業所数】



【従業者数】



1 全体像

めざすべき将来像

つながり、ふれあい、みまもり、支えあう、誰一人取り残さない、安心して暮らせるまち

5つの柱

施策展開の方向性

施策

1 つながる・支えあう

- 気にかける・つながる・支え合う地域づくり
- だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり

- ✓ 人と人とのつながりにおいて、お互いが配慮し存在を認め合い、支え合うことで、地域で孤立せずその人らしい生活を送ることができるような、「気にかける・つながる・支え合う地域づくり」を進めます。
- ✓ 支援を必要とするすべての人に必要な支援が行き届く地域社会の実現に向けて、生活の場である地域を基盤として、「だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり」をめざします。

2 備える

- 災害に強いまちづくり
- 街頭犯罪等や交通事故の少ないまちづくり

- ✓ 今後想定される大規模な自然災害に対する備えとして、区民の防災意識の向上と、地域防災力の強化に向けた支援、区災害対策本部の機能強化に努めます。
- ✓ 鶴見区を安全なまちにするため、地域、関係機関、事業所等と連携し街頭犯罪の抑止や特殊詐欺被害の防止等に取り組みます。また、交通事故の減少や自転車マナーの向上をめざし、啓発活動に取り組みます。

3 育てる・まなぶ

- 安心して子育てできる環境づくり
- まなびを通じたつながりづくり
- 学校教育の支援

- ✓ 地域の関係機関や関係団体と連携し、保護者や子どもが交流・情報交換できる場の設定や相談支援の充実、子育て等に関する情報発信の強化、また児童虐待防止に向け関係機関と連携を図り、支援や相談対応などを行います。さらに、子どもの居場所の確保や学習支援など、安心して子育てできる環境づくりを進めます。
- ✓ 幅広い層に「まなびの場」を知ってもらうとともに、「まなび」を通じたつながりづくりを進めます。
- ✓ 区役所が学校や地域、保護者のニーズや意向を把握し、効果的な学校支援を進めます。

4 聴く・伝える

- 区政情報の発信及び区民ニーズの把握

- ✓ あらゆる世代に必要な情報をわかりやすく提供できるよう情報発信をおこなうとともに、区政会議等により多様な区民ニーズの把握に努めます。

5 共に生きる

- 環境を守り自然と共生したまちづくり

- ✓ 2030年までを目途とする持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、SDGsの区民への浸透を図るなど、SDGsにかかる取組みを進めていきます。

※「5つの柱」及び「施策展開の方向性」のうち、これまでの5年間（2018～2022）からの変更箇所は下線

2 施策展開の方向性・施策

柱（1つめ）

施策展開の方向性

これからの5年間（2023～2027）

1 つながる・支えあう

- 気にかける・つながる・支え合う地域づくり
- だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり

これまでの5年間（2018～2022）

1 つながる・支えあう

- 住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり

※変更点は下線箇所

施策

■ 気にかける・つながる・支え合う地域づくり

人と人のつながりにおいて、お互いが配慮し存在を認め合い、支え合うことで、地域で孤立せずその人らしい生活を送ることができるような、「気にかける・つながる・支え合う地域づくり」を進めます。

■ だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり

支援を必要とするすべての人に必要な支援が行き届く地域社会の実現に向けて、生活の場である地域を基盤として、「だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり」をめざします。

2 施策展開の方向性・施策

柱（2つめ）

施策展開の方向性

これからの5年間（2023～2027）

2 備える

- 災害に強いまちづくり
- 街頭犯罪等や交通事故の少ないまちづくり

これまでの5年間（2018～2022）

2 備える

- 災害に強いまちづくり
- 街頭犯罪・交通事故の少ないまちづくり

※変更点は下線箇所

施策

■ 災害に強いまちづくり

今後想定される大規模な自然災害に対する備えとして、区民の防災意識の向上と、地域防災力の強化に向けた支援、区災害対策本部の機能強化に努めます。

■ 街頭犯罪等や交通事故の少ないまちづくり

鶴見区を安全なまちにするため、地域、関係機関、事業所等と連携し街頭犯罪の抑止や特殊詐欺被害の防止等に取り組みます。また、交通事故の減少や自転車マナーの向上をめざし、啓発活動に取り組みます。

2 施策展開の方向性・施策

柱（3つめ）

施策展開の方向性

これからの5年間（2023～2027）

3 育てる・まなぶ

- 安心して子育てできる環境づくり
- まなびを通じたつながりづくり
- 学校教育の支援

これまでの5年間（2018～2022）

3 育てる・まなぶ

- 安心して子育てできる環境づくり
- まなびを通じたつながりづくり
- 学校教育の支援

※変更点は下線箇所

施策

■ 安心して子育てできる環境づくり

地域の関係機関や関係団体と連携し、保護者やこどもが交流・情報交換できる場の設定や相談支援の充実、子育て等に関する情報発信の強化、また児童虐待防止に向け関係機関と連携を図り、支援や相談対応などを行います。さらに、こどもの居場所の確保や学習支援など、安心して子育てできる環境づくりを進めます。

■ まなびを通じたつながりづくり

幅広い層に「まなびの場」を知ってもらうとともに、「まなび」を通じたつながりづくりを進めます。

■ 学校教育の支援

区役所が学校や地域、保護者のニーズや意向を把握し、効果的な学校支援を進めます。

2 施策展開の方向性・施策

柱（4つめ）

施策展開の方向性

これからの5年間（2023～2027）

4 聴く・伝える

- 区政情報の発信及び区民ニーズの把握

これまでの5年間（2018～2022）

4 聞く・伝える

- 情報・魅力発信・総合窓口の充実

※変更点は下線箇所

施策

- 区政情報の発信及び区民ニーズの把握

あらゆる世代に必要な情報をわかりやすく提供できるよう情報発信をおこなうとともに、区政会議等により多様な区民ニーズの把握に努めます。

柱（5つめ）

施策展開の方向性

これからの5年間（2023～2027）【新規】

5 共に生きる

- 環境を守り自然と共生したまちづくり

※変更点は下線箇所

施策

- 環境を守り自然と共生したまちづくり

2030年までを目途とする持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、SDGsの区民への浸透を図るなど、SDGsにかかる取組みを進めていきます。

3 施策毎の主な取組み

1 つながる・支えあう

2 備える

3 育てる・まなぶ

4 聴く・伝える

5 共に生きる

施策展開の方向性

施策



- 気にかける・つながる・支え合う地域づくり
- だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり

- ✓ 人と人とのつながりにおいて、お互いが配慮し存在を認め合い、支え合うことで、地域で孤立せずその人らしい生活を送ることができるような、「気にかける・つながる・支え合う地域づくり」を進めます。
- ✓ 支援を必要とするすべての人に必要な支援が行き届く地域社会の実現に向けて、生活の場である地域を基盤として、「だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり」をめざします。

主な取組み（予定）

1. 地域福祉力の向上

つなげ隊への研修 など

2. 地域活動協議会による自律的な地域運営の促進

地域住民による見守り活動 など

3. 健康増進意識の向上

健康まつり・食育フェスタ など

4. 相談支援体制の充実

つながる場の開催 など



【1 つなげ隊への研修】



【2 地域住民による見守り活動】



【3 健康まつり・食育フェスタ】



【4 つながる場の開催】

3 施策毎の主な取組み

1 つながる・支えあう

2 備える

3 育てる・まなぶ

4 聴く・伝える

5 共に生きる

施策展開の方向性

施策



■ 災害に強いまちづくり

✓ 今後想定される大規模な自然災害に対する備えとして、区民の防災意識の向上と、地域防災力の強化に向けた支援、区災害対策本部の機能強化に努めます。

■ 街頭犯罪等や交通事故の少ないまちづくり

✓ 鶴見区を安全なまちにするため、地域、関係機関、事業所等と連携し街頭犯罪の抑止や特殊詐欺被害の防止等に取り組みます。また、交通事故の減少や自転車マナーの向上をめざし、啓発活動に取り組みます。

主な取組み（予定）

1. 防災意識の向上
（自助）

安全・安心フェスタ など

2. 地域防災・減災力の向上
（共助）

防災訓練 など

3. 区災害対策機能の強化
（公助）

震災総合訓練 など

4. 地域・関係機関と連携した
防犯対策

防犯一斉行動 など

5. 地域・関係機関と連携した
交通安全対策

放置自転車追放啓発活動 など



【1 安全・安心フェスタ】



【2 防災訓練】



【3 震災総合訓練】



【4 防犯一斉行動】



【5 放置自転車追放啓発活動】

3 施策毎の主な取組み

1 つながる・支えあう

2 備える

3 育てる・まなぶ

4 聴く・伝える

5 共に生きる



施策展開の方向性

施策

- 安心して子育てできる環境づくり
 - ✓ 地域の関係機関や関係団体と連携し、保護者や子どもが交流・情報交換できる場の設定や相談支援の充実、子育て等に関する情報発信の強化、また児童虐待防止に向け関係機関と連携を図り、支援や相談対応などを行います。さらに、子どもの居場所の確保や学習支援など、安心して子育てできる環境づくりを進めます。
- まなびを通じたつながりづくり
 - ✓ 幅広い層に「まなびの場」を知ってもらうとともに、「まなび」を通じたつながりづくりを進めます。
- 学校教育の支援
 - ✓ 区役所が学校や地域、保護者のニーズや意向を把握し、効果的な学校支援を進めます。

主な取組み（予定）

1. 切れ目のない子育て施策の推進

つるみっ子ルーム運営 など

2. 児童虐待防止対策

児童虐待防止啓発 など

3. こどもに寄りそう事業

こどもの居場所づくり など

4. 生涯学習の推進

生涯学習ルームフェスティバル など

5. 人権教育の推進

人権啓発推進セミナー など

6. 学校教育の支援

夢・未来創造事業 など



【1 つるみっ子ルーム運営】



【2 児童虐待防止啓発】



【3 こどもの居場所づくり等】



【4 生涯学習ルームフェスティバル】



【5 人権啓発推進セミナー】



【6 夢・未来創造事業】

3 施策毎の主な取組み

1 つながる・支えあう

2 備える

3 育てる・まなぶ

4 聴く・伝える

5 共に生きる

施策展開の方向性

施策



■ 区政情報の発信及び
区民ニーズの把握

✓ あらゆる世代に必要な情報をわかりやすく提供できるよう情報発信をおこなうとともに、区政会議等により多様な区民ニーズの把握に努めます。

1. 区民が必要としている
区政情報の発信

各種広報媒体を活用した情報発信 など

2. 多様な区民ニーズの把握

区政会議の開催 など

主な取組み（予定）

【1 各種広報媒体を活用した情報発信】

【2 区政会議の開催】

3 施策毎の主な取組み

1 つながる・支えあう

2 備える

3 育てる・まなぶ

4 聴く・伝える

5 共に生きる

施策展開の方向性

施策



■ 環境を守り自然と共生したまちづくり

✓ 2030年までを目途とする持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、SDGsの区民への浸透を図るなど、SDGsにかかる取組みを進めています。

主な取組み（予定）

1. SDGsの推進

SDGsの周知・啓発 など

2. 花と緑豊かな環境の推進

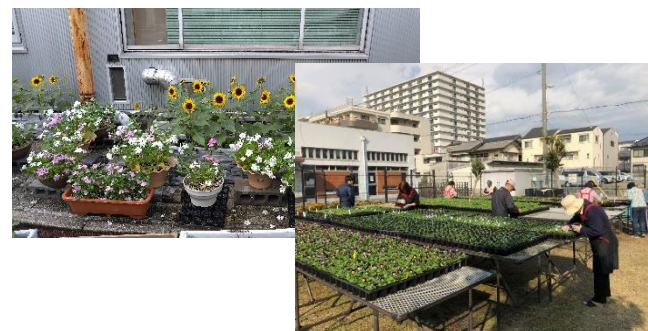
種から育てる地域の花づくり活動 など

3. 環境についてのまなび

環境局との連携事業 など



【1 SDGsの周知・啓発】



【2 種から育てる地域の花づくり活動】



【3 環境局との連携事業（燃料電池自動車の展示）】

3 施策毎の主な取組み

（参考）成果指標

※各指標の数値はR09(2027)年度時点の目標値

制定時		対応	改訂後
柱1	区民アンケートで「日常生活の中で『お元気ですか』や『何かお困りですか？』など住民同士の『声かけ』『見守り』『支え合い』が行われていると感じる」と回答した区民の割合 60%以上	変更	住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業に関するアンケートで「自らが参加する活動に満足している」と回答した地域福祉活動の参加者の割合 98%以上
	「地活協の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組みが自律的に進められている状態にあると思う」と評価した各地域活動協議会運営委員の割合 ※数値は「市政改革プラン3.1」に基づき設定していることから、R09年度の目標値について未設定	削除	—
	区民アンケートで「運動や食生活など、健康に関する取組みを行っている」と回答した区民の割合 80%以上	変更	イベント参加者へのアンケートで「健康に関する取組みへのきっかけ、または継続のやる気に繋がった」と回答した区民の割合 95%以上
	区民アンケートで「地域で支援を必要としている人に必要な支援が行き届く地域社会になっていると感じる」と回答した区民の割合 40%以上	変更	住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業に関するアンケートにおいて「地域の方にお困りごとがあったとき、適切に相談が受けられる、または必要な支援が受けられる地域社会になっている」と回答した地域福祉活動の担い手の割合 90%以上
柱2	区民アンケートで「鶴見区で実施している取組み（区民の防災意識の向上や地域防災力の強化に向けた支援など）が、今後の災害に対する備えにつながっていると感じる」と回答した区民の割合 75%	変更	安全・安心フェスタの参加者へのアンケートで「鶴見区で実施している取組み（区民の防災意識の向上や地域防災力の強化に向けた支援など）が、今後の災害に対する備えにつながっていると感じる」と回答した割合 85%以上
	—	追加	鶴見区災害対策本部職員へのアンケートで「大規模災害発災時に区役所が果たす公助の強化に向けた取組みを理解している」と回答した割合 100%
	区民アンケートで「安全で住みやすいまちと感じている」と回答した区民の割合 90%以上	変更	主な街頭犯罪（自転車盗難、ひったくり等）件数 前年より減

3 施策毎の主な取組み

（参考）成果指標

※各指標の数値はR09(2027)年度時点の目標値

制定時		対応	改訂後
柱3	区民アンケートで「鶴見区は子育てしやすいまちだと感じている」と回答した子育て世帯の区民の割合 90%以上	変更	子育て支援事業の利用者へのアンケートで「当該事業が役に立った」と回答した割合 95%以上
	区民アンケートで「まなびを通してつながりを感じている」と回答した区民の割合 75%以上	変更	各事業の参加者へのアンケートで「身近な学びを通して人とのつながりができていると感じている」と回答した割合（総事業平均） 90%以上
	区民アンケートで「人権尊重のまちづくりが進んでいる」と回答した区民の割合 50%以上	変更	各事業の参加者へのアンケートで「区が開催する人権イベントや各校下での学習会の取り組みが人権問題への関心や意識を高める上で役に立っていると思う」と回答した割合（総事業平均） 90%以上
	「学校や保護者のニーズ、意向が教育行政に反映されていると思う」と回答した校長・教頭の割合 90%以上	変更なし* *	「学校や保護者のニーズ、意向が教育行政に反映されていると思う」と回答した校長・教頭の割合 94%以上
柱4	区民アンケートで「鶴見区が実施する広報（区広報紙、区ホームページ、SNS、区広報板など）で、必要とする区政情報が必要なときに入手できている」と回答した区民の割合 75%以上	変更	大阪市LINE公式アカウントで「鶴見区」の情報を受信設定した区民等の人数 3300人以上
柱5	区民アンケートで「日頃から意識してSDGsに取り組んでいる」と回答した区民の割合 80%以上	変更	「SDGsポスターコンクール」（小学校3～6年生対象）の参加者数 150人以上

*指標については「変更なし」だが目標値は上方修正している